

討論メモ

「中国の脅威」

令和 2年 10月 20日

1. 中国発ウイルスの影響で、長らく休会しておりましたが、今月、ようやくオンラインで再開することができました。

最初に、福岡在住の大平さんより配布済みのレジメに沿って、中国の脅威について、歴史上の諸事実や文化の成り立ちなどにさかのぼっての解説がありました。

特に、日本が不得意とする情報戦、工作活動、例えば世界 162 か国に 550 校設立した孔子学院を通じての長期的な文化侵略の脅威などについて詳しくご説明がありました。

また、二階幹事長を始めとする沢山の親中議員、大勢で中国参りをする経団連、商工会議所の存在、千人計画への関与が疑われる学会会議会員の危機感の薄さなどに懸念を示されました。

2. 次いで出席者 7 名の自由な討論に入り、下記のような意見が出されました。

- ・中国はしたたか。幹部は日本の政治家よりもよほど真剣に国の運営を考えている。日本は批判ばかりしていないで、見習うべきだ。

- ・中国のトップは血みどろの権力闘争を経験してきている。地方で勝ち抜いて生き残った者が、さらに中央で戦っている。

- ・何はともあれ、14億の人間をおさめ、食わせるのは大変なことだ。

- ・日本の政治家は命がけの闘争もしていないし、勉強も不足している。

- ・外務省は世界各地に慰安婦像を建てられても何もしない。

- ・正しいことをしていれば、いつか相手国がわかってくれるというのは甘い考えだ。

- ・身の回りは中国製品だらけだ。中国を警戒するなら、こうしたことにもっと関心を払うべきだ。

- ・北海道を始めとして土地を中国人に売っている。取り締まる法律もないのはおかしい。

- ・対馬や壱岐も韓国に買われているようだ。

- ・不用意に土地を売るのは危険な行為だが、この30年、日本が貧しくなってきたのも、外資に土地を売らざるを得ない一因だ。

- ・企業がため込んできた内部留保は、コロナ不況でどのように使われるのか関心がある。

- ・確かに、中国はしたたかだし、市場としての魅力もある。しかし、同時に香港、ウイグル、チベットで明るみに出ているように言論弾圧、民族弾圧を行っているのも明らかだ。

- ・豪州、インドなどは、日本よりも、中国への経済面の依存度は高かった。それでも経済的損失を覚悟した上で、安全保障を重視して中国への距離を置き始めている。日本も一時的な経済損失は覚悟した上で、毅然たる態度で中国に臨むべきだ。

- ・世界を支配していた GAF A に対して、中国の BATH は売り上げも、技術力も追いついてきている。この会議も ZOOM でやっているが、中国の影響下にあり、すべてモニターされている。日本は苦しい状況に追い込まれている。

- ・我々の世代は右肩上がりの時代だったが、子供たちは 30 年間、右肩下がりばかりを経験している。親として責任を感じる。

以上